

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800015		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	グループホームファミリア下呂		
所在地	岐阜県下呂市森2273番地		
自己評価作成日	平成25年8月26日	評価結果市町村受理日	平成25年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kanji=true&amp;JiyosyoCd=2192800015-008PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kanji=true&amp;JiyosyoCd=2192800015-008PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成25年9月11日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念に基づき、地域に根ざす優しさ、やすらぎ、信頼をモットーとし、職員一人一人が意識を持って介護サービスに努めています。利用者様が残された力を発揮し、食事作りのお手伝いや、裁縫などをおこなっていただき、いきいきとした生活が送れるように支援しています。また、温泉を活用し、入浴も楽しんでいただいている。選ばれる施設を目指し、個々の努力と職員全体のチームワークで職務を遂行するように努力しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺は緑が多い高台にあり、同一建物内に、グループホーム、小規模多機能事業所、デイサービス、住宅管理事業所がある。また、サービス付き高齢者向け住宅が建物前に新設され、総合高齢者福祉施設となっている。グループホームの入居者もいろいろな場面で地域の人々と出会う機会が増え日々を暮らしている。職員の交代も余儀なく起きているが、利用者にとって安心がある、安らぐ居場所であることを目指し、職員は各種の委員会を創ったり法人が開設したケアスクールで学習している。一人ひとりの「利用者の思い」に真摯に向き合うケアを振り返りながらその人らしい暮らしの実現に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を念頭におき、介護サービスが提供できるように、会議やミーティングなどで確認し、共有できるように努めている。	法人の理念「利用者の尊厳と心の安らぎを第一に考える…」に、事業所とし「地域に根ざす、やさしさ、安らぎ、信頼」を加え、文言を職員の名札に記入したり、ミーティングで具体的なケアの例示をする等で意識付け、確認を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区内清掃では職員が参加して交流を図っている。事業所の行事には地域のボランティアの方々に訪問していただき、踊りや歌などで、利用者様に楽しんでいただいている。	区長を通し、地域の祭りのみこしなどが、ホームに来訪するようになり、利用者も地域の祭りを楽しんでいる。年2回行われる区内清掃に参加し、地域の住民と顔見知りの関係が出来てきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ケアスクールの開講や、高校生の実習の受け入れをおこなっている。推進会議において、認知症を理解するための、勉強会も取り入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回推進会議を開催し、御家族地域代表、市役所の方々に参加していただき、現状で介護に困ってみえる方の話を聞いたり、意見や情報を伺っている。	行政、利用者、家族、地区長、民生委員等をメンバーとし併設小規模事業所と同日開催する。事業所内の状況報告、法人が新設する福祉施設の説明等を行っている。地域役員から地域の高齢者の介護情報が提供され、関連機関への連絡に繋がっている。今後会議で、「目標達成計画」の進捗状況報告を行っていく予定。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常的に行政と連絡を取り合い、協力関係が築けるよう努めている。	市内の高齢者情報や当該事業所利用者への注意喚起情報などの情報提供を受けている。行政と積極的に関わり、行政からの要望に応え小坂地区に新事業所を建設中である。隔月に開催する運営推進会議には毎回出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容としては、勉強会で職員全員 理解するようにしている。また日々のミーティングなどでとりあげ、身体拘束をしない介護を心掛けている	施設内で開設する「ケアスクール」で学習し資料も各職員に配布している。ケアが職員の都合で行ってないか担当者会議、職員の気づきで確認を行っている。利用者の精神的安定と安全対応のため、家族への説明や理解を得て、一時的につなぎ服の着用があったが、現在はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や勉強会などにおいて精神的・身体的又は言葉による虐待防止を徹底している。		

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている利用者がみえるため、その制度の内容などを学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には施設の方針、内容などについて十分説明し、納得していただいた上で契約をかわしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の担当職員が意見や思いなどを聞きやすいように、日頃からコミュニケーションを意識している。また面会にこれない家族には、月に1回の通信誌により要望を伺っている。	家族来訪時に職員が笑顔で迎え、家族が気兼ねなく意見が言えるよう、職員が傾聴、話し方、言葉遣い等意識的に取り組めるようになってきた。訪問が少ない家族には直接電話し、利用者が喜んだ出来事を報告し、信頼関係構築に役立てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や随時のミーティングにて職員から意見や問題点を聞き、解決策などを話し合い、方針を決めている。	現在、法人による事業所の増設、新規事業開設等で職員の異動もやむなく起きている。職員が利用者情報の周知徹底・共有やケア手法の統一を図るため各種委員会(マナー・接遇・身体拘束防止等)を立ち上げる提案があり、現在委員会開設に向け取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や勤務態度を把握し、評価している。研修などにも参加しやすいように、シフトなども考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を設けて、職員のスキルアップを目指している。職員自身にも講師をおこなってもらい、自己学習の場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を作れていないが、施設見学や電話での情報交換などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より本人の生活情報を家族より聴取し、入所後も、本人の要望や思いを話しやすい環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談される御家族が御本人に対し、困っている事、不安に思っている事、要望などをしっかり把握し、入所前から信頼関係がもてるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネが利用相談を受けてから、なにが必要か、本人や家族から十分なアセスメントをおこない、適切な支援ができるように心がけ、サービスに反映するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの人間性や性格、力量に配慮しながら、職員は利用者と同じ目線、立場で介護していけるよう心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の意向や思いについて御家族に意見を伺う事で、御家族も共に支援しているという関係を作るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や訪問時はいつでも来ていただけるような、明るい雰囲気作りに努めている。行きつけの美容院であったり、図書館などの外出支援などをおこなっている。	地区の敬老会へ出席する、よく行った食堂へ出かけるなど本人が馴染んできた生活の場所へ出かけられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が間に入って良好な関係が保てるように配慮している。行事などでは、各フロアの利用者同士がふれあう場を設け、交流できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所し、他の施設に入所された時などサマリーなど情報提供を行い、ご本人の介護に役立つよう配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの訴えや意向に耳を傾け把握に努めている本人の意向に沿えるようにカンファレンスで検討対応している。	職員が利用者2~3名を担当する担当制をとっており、情報はシートに記載され、ケアマネジャーや担当外職員も確認できる。職員は、利用者の表情や言動の変化から「利用者の思い」を把握する意識を高め、働きかける力をつけるよう学習会、職員会議、カンファレンスを通じ取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやサマリーを活用したり、御家族の面会時にお話を伺ったりしてこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者が訪室し、日々の過ごし方や心身の状態を把握したり、介護記録や申し送りノートを活用し状況を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や御家族からの要望や意向、職員からの意見を元に介護計画を作成している。カンファレンス実施後はケアのあり方を統一できるように努めている。	介護計画は、利用者や家族の要望を確認したり、職員、看護師、医師から得た情報を参考に立てる。介護計画を職員は周知しているが、日々のケアの統一を図り、職員が「利用者の思い」への意識を高め、日常を支援するチームとして育つ取り組みを始めた。	職員の職場異動のある中、どの職員も利用者に統一した「利用者の思い」に添ったケアが行えるよう取り組み始めた課題を実践し、その成果に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の他に介護日誌や特記録に記入する事で職員間で情報を共有したり、ケアの実施や介護計画の見直しにも役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の要望などの意見を尊重し、その時の状況に応じて柔軟な支援をおこなえるようにしている。		

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月一回、絵手紙教室や寺の住職による講話を催している。行事でも地域の芸能ボランティアに依頼し、色々な催し物を楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回、往診を行なっている。また、体調の変化に合わせて常時、電話にて報告、連絡、相談し、状況に合った医療を提供できるように努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、利用者のバイタルを測定し、体調の変化や職員の気付きを看護師に報告し、適切な看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との情報交換等はこまめに行い、認知症の方は早期に退院できるように、協力体制を整えて、関係作りをおこなっている。退院時には主治医とも面談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時やその時の状況に応じて意向調査を行い家族との意向確認を行なっている。 看取りの時期には、ご家族と十分話し合い、家族が望まれる生活ができるように支援している。 協力医院に往診を依頼している。	「重度化をした場合における対応にかかる指針」を文書で説明し、家族の意向が確認される。家族は、地域の協力医からも終末期に向けての面談を受け、事業所協力医との連携で看取りが行われる。職員が家族の心情も重視できるよう学習会でも意識付けている。本年5事例あり、家族で交代で看れたと感謝の声がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会などで、急変時の対応などを学習している。また消防署の方に来ていただき、設備や備品の管理等の講習会を行なっていたりしている。また消防署内での研修会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、防災訓練を行なっている。地元自治会に加入し、災害時の協力をお願いしている。	同一敷地内に新施設が出来たことを踏まえ、10月に実施する訓練時には、はしご車も来て、避難経路の再度の確認、誘導方法の確認等を計画している。また、「火災を除き、事業所を避難場所として過ごす」とし、布団、毛布、水(井戸水・ペットボトル)、カセットコンロ等備蓄、地域の人々にも提供し、応援する体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の介護の中で、一人ひとりの人格を大切に接し方を心掛けている。言葉遣いなど、日々のミーティングなどで話あい、確認している。	利用者と一対一で向き合った時も、業務が忙しい場合においても、自分に置き換えた言葉かけ、言葉遣いであるようにしており、日常業務の中で職員間で気づきを報告したり、検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアマネや居室担当が訪室し、少しでも本人様の希望が引き出せるよう会話を設けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた支援を心掛けている。利用者の体調や状態などを、考慮するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの準備を利用者と共におこなったり、外出して好みの衣類の購入などの支援をおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど出来る範囲で手伝って頂いている。月に一度のおやつ作りや旬の食事作り(ほう葉寿司作り、おはぎ作り)など一緒に作っている。	法人厨房で専属の職員が食事を作り、各ユニットに運ぶ。汁物を、ユニット台所で温め、汁物の匂いがリビングに広がる。介助が必要な利用者が多く、職員は介助に専念している。デザート作りや準備は、本人が自信を持って出来ることをしていけるよう、支援経過記録などを通し本人の様子を把握して、参加を促している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を個人記録やバイタル表に記録し把握している。個々の嚥下状態や義歯の状態などに応じて、食事形態を工夫し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、起床時、就寝前に口腔ケアを行っている。自己にて出来る方も声掛けや見守りを行ったり、介助の必要な方は職員が行なっている。又、歯科衛生士の方に口腔内のチェックも行なってもらっている。		

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェックし、個別に必要な支援をおこない、一人ひとりの自立に向けての介助をしている。	24時間対応のチェック表に、声かけが必要、後始末の内容に支援が必要である等細かく観察し、記録、自立に向けての介助を行っている。声かけに対しては、言葉遣いや、声のかけ方、ケアの方法に特に注意を払い利用者を興奮させない支援となるよう職員間で注意しあっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握しながら看護師の指示に基づいて内服薬及び座薬を使用している。水分摂取やヤクルトや牛乳などの提供を行ない便秘予防への対応としている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉及び季節に合わせて、ゆず風呂菖蒲湯につかって頂き、楽しんで頂いている。	温泉が引いてあり、利用者が大変楽しみにしている。介助が必要な利用者の増加に伴い安全性の確保や職員の健康への負担軽減のため、機械浴槽を1台入れた。機械浴の浴槽にも温泉が入るよう設備されている。入浴回数は出来るだけ本人の希望を叶えており、週5回の利用者もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節の良い時窓を開け空気の入替えなどさせて頂き、居室の清掃なども注意し日中でも休みたい時に休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の勉強会もおこない、スタッフ一人ひとりに理解してもらっている。服薬忘れなどないようスタッフ同士確認するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に出来ることを職員が一緒におこなっている。カラオケや散歩など、本人の意向に沿って、楽しみごとができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外気浴に出掛ける様にしている。短時間でも外の空気を吸っても少しでも気分良く、快適な時間を送れるよう支援している。また季節の花木を見学できるよう、計画を立て、外出している。	日常的に4~5人程度の集団で、外出を計画「風を感じる、季節を感じる、景色を見る」ために外出することを大切にしている。本人が外出に関心を示さないから行かない、花がないから出かけない等の考えを止め、積極的な外出支援を職員間で進めている。	

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出にて買い物をしていただいたり、月二回の移動販売に参加して頂き支払い出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使用していただいたり、本人持ちの携帯電話を使用していただいている。又、郵便箱を設け自由に郵便物を出して頂けるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔・安全に心掛け、四季を感じて頂けるよう、花や壁絵を替えたりし、明るい空間作りに心掛けている	1階、2階に各ユニットがあり、ユニット内の移動は昇降機、階段の利用となるが、高台の傾斜地に建ち、各階とも出入り口が道路に面しており外には出やすい構造になっている。建物周辺は緑が多く、見晴らしがよく明るい。各階の台所の活用もあり、食事の支度が分かり生活感がある。清潔に清掃され共有空間での不快な刺激はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座布団を置き、タオルケットを使用し、ゆっくりと休んで頂けるようにしている。また、座席などは気の合う利用者同士が座っていただけるように工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より使い慣れた物を持ち込んで頂いたり写真やカレンダーなどを飾るなどし、環境にも工夫している。	入居に当たり、利用者の気持ちを大切にしながら、道具や家具を少しずつ搬入したり、引き上げたりし、時間をかけ居室づくりを行い、居室がだんだん本人の居場所と認識されていくことが多い。使い勝手の良い配置や目印に配慮している。家族間連絡ノートがある居室がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場面に応じ、手すりを設け安全かつ安心して行動して頂けるようにしている。		